

「平成29年度 第6回大月みらい協議会」

会 議 概 要

日 時 平成30年2月13日（火）午後7時から午後9時まで
場 所 大月短期大学 会議室
出席者 委員14名（7名欠席）
小笠原則雄、小俣理美、小池幹彦、三枝良光、佐々木啓吉、佐藤茂幸、志村淳、
志村賢二、庄司有紀、中島啓介、仁科美芳、福島尚美、三木範之、渡辺勝
【事務局】 石井企画財政課長、井上地域活性化担当リーダー、榎本、堀内

1. 志村議長あいさつ

皆さんこんばんは。今年初めての会議でございます。昨年は大変ご苦勞様でした。今年度は3月で終わりますが、本日の会議はとても大事なのかなと思っております。

先日、市役所職員の皆さんの研修会がありました。大月市と山梨中央銀行が地域活性化の連携協定を結びまして、それをきっかけとした山梨中央銀行から講演をされる先生が来るといふことで参加させていただきました。その研修で、自分達がこの一年間議論してきたことが先生の講演の中で出てきたのです。これを聞いて、私達がやってきたことが間違えではなかったということ強く感じたところでございます。

私達は、これからどうしようかというところにいよいよ差し掛かる訳ですが、やってきたことに自信を持ちながら、皆さんと方向性を決めていきたいと思っております。簡単ではありますが挨拶に代えさせていただきます。本日はよろしくお願い致します。

2. 議 題

(1) 平成29年度第5回会議概要について

●平成29年度第5回会議概要の市ホームページへの公開について承認された。

(2) ふるさと教育の検討課題の絞り込みについて

【志村議長】

次に「ふるさと教育の検討課題の絞り込みについて」に移りたいと思っております。前回の会議では、検討課題の絞り込みが出来ませんでした。その状況の中で、正副議長と事務局で打合せを行いまして、前回の会議で皆さんがどのような意見を言ったのか、議事録を読み返し、要約してみました。そして、皆さんがおっしゃった意見の中からキーワードを拾い出しました。その中で、皆さんの意見の中に「夢」という言葉が、共通する言葉としてあるのかなと思っておりました。私どもはこの「夢」という言葉に着目しました。

今日はこれらの小泉教育長さんがおっしゃった言葉と皆さんがおっしゃったキーワードを見ながら、具体的なことを決めていきたいと思います。ここから先については、佐藤副議長さんをお願いをして進めていきたいと思います。

【佐藤副議長】

皆さんこんばんは。進めていくに当たって、まずは今までの経過について再度確認させていただきます。

前回12月の会議に、小泉教育長さんからお話がありました。その話の中身は、私達がみらい協議会の中で、ふるさと教育というテーマに対して、ここに問題があってこのようなことをやったらどうかということ、3つの班に分かれて整理してまとめました。それを一度教育委員会、小泉教育長さんに提示をした上で、前回お話を頂きました。

みらい協議会の思惑としましては、ふるさと教育にはやるべきことがいっぱいあるのですが、教育の現場、教育委員会サイドに立ったとき、みらい協議会に「これをやってくれ」と言ってもらえれば、私達は動けるということだったのですが、「ズバリこれをやってくれ」という話にはなりませんでした。

それはそれでいい意見交換になったのかなと思いますが、みらい協議会として前に進めていかなければいけません。ずっと議論ばかりしても仕方ありませんので、小さなことでもいいと思うのですが、みらい協議会でふるさと教育の実践ということで、何かをやるのが当面の私達の目標です。今日は、それを少し明らかにできたら、あるいは次回くらいに明らかに出来たらいいかなという段階であります。

先程、志村議長がお話をされた通り、前回の小泉教育長さんのお話を受けて私達は議論をしました。その議事録を読み返してみますと、どうやら私達の中で方向性のようなものが収斂（しゅうれん）しつつあるのかなと感じました。その一つのキーワードが「夢」ということだと思います。

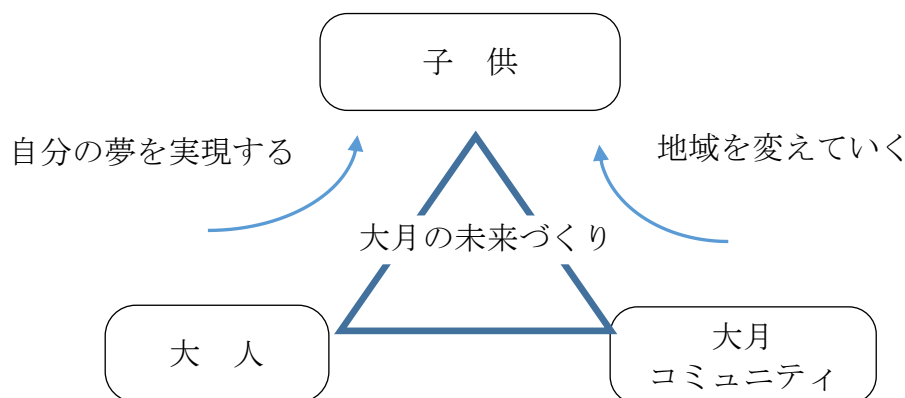
真ん中に「夢を応援する大月市」ということで位置付けると、「その夢を語る大人がいないのではないか」、「カッコいい大人がいないのではないか」、「子どもを見る前に我々大人が大月のみらいを語れるような大人にならなければいけないのではないか」という意見がありました。あるいは、「学校の教育だけではなく、キャリア教育も重要なのではないか」とか、「学校や家庭の現場においては、一杯一杯なので、それをサポートするような地域ぐるみの仕組みを作る必要があるのではないか」というような意見が出てきました。ここまでが前回の確認です。これから進めたいことは、みらい協議会がふるさと教育をどのように捉えるかということを確認し、その共通認識に立った上で、では何をやりますか？ということ、今日、少し手がかりみたいなものを、出せたらなというところをやっていきたいと思います。そして出来れば、次回3月の会議のときには、来年度4月から具体的にこれをやりましょうという方向に持っていきたいと考えております。

私が資料を作らせていただきました。私達大月みらい協議会が示すふるさと教育とは何かということ、理念的なもので一旦固めてしまおうかなと考えました。これは今まで議

論してきて何となくこのような方向性に進んでいるので、そんなに外してないのではないかと思います。これは私が作った理念です。これをこの場で一回確認した上で、この理念を実現する何かを少しこの場で話し合っていきたいと思っております。

まわりくどい言い方をしていますが、その理念って何か？ということですが、このように文章化してみました。これは案なので、もう少しこうした方がいいということがあればご意見をください。

私達みらい協議会が示すふるさと教育の理念（案）は、『大月ふるさと教育とは、大月の未来を創る人づくりそのものを指す。』人を創る行為そのものがふるさと教育です。そして、それを具体的にする2つのビジョンは次のとおりで、これが前回いろいろと議論し収斂させた2つのことですが、1つ目は**“子供”の前で「夢を語る“大人”」をつくる。**私達も含めて、子どもの前で、大月にはこんな未来があるという夢を語れる大人を創る。2つ目は**“子供”が抱く「夢を応援する“大月コミュニティ”（=小さな拠点）」をつくる。**子どもに夢を語るだけでなく、子どもにも夢を持ってもらうのですが、夢を持つだけでは駄目で、夢を実現できるようなベースを作りましょうということです。大人を創るということと、コミュニティは、全て子どもの夢に向けます。こんなものを理念にしたらどうかなと思います。それを図にすると、下のようになります。



この図には主体が3つあります。一番上の「大月の子ども達」、左側に「大人」、右側に「地域のコミュニティ」です。子どもに対して、まず大人が夢を語る。そして子どもの夢を地域ぐるみで応援する体制づくり。このような図式化をしてみました。これを一旦私達の理念にするということで議論していただいて、「何をやるのか？」というところまで持っていったらと考えております。

- その後、佐藤副議長が提案したみらい協議会が示すふるさと教育の理念と2つのビジョン」が承認され、取り組んでいくこととなりました。
- 次回会議では、この理念とビジョンに基づき、今後どのような取り組みをしていくのか、具体的な提案を行うこととなり、大月みらい協議会として取り組むモデル事業を決めていくこととなりました。

(3) 大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況の効果・検証について

- 総合戦略の進捗状況について、4名の委員から9つの意見の提出がありました。これについては、一度志村議長が預かることとなりました。その理由として、意見の中には細かい部分で既に市が取り組んでいる部分があるのではないかということから、市の取り組みを確認後、提案者と相談し、必要に応じて修正を行った上で、みらい協議会の意見として、生きがい創生委員会へ報告することとなりました。

(4) その他

- 2月27日に大月短期大学岩殿ホールで開催される「子育て講演会」及び3月4日に市民会館で開催される「第56回大月市生涯学習推進大会」の案内がありました。
- 「冬のおおつき体感ツアー」及び「おおつき体感萬（よろず）ツアー」の紹介を行いました。委員の皆様のご友人等で、大月に興味がある、あるいは大月に移住を考えている方がいましたら、「おおつき体感萬（よろず）ツアー」を紹介して下さいますようお願いがありました。
- 市内出身で、現在都内在住の大学生が、大月みらい協議会へ傍聴したいとの申し出があったことが事務局から説明がありました。

申し出があった大学生は、大学卒業後、これまで育ててもらった大月への恩返しとして、「大月市を活性化させたい」ことや、「次世代にも良い環境を作る」ということを考えているようで、現在大学で「地域活性化」というテーマで研究していることから、その一環で、大月みらい協議会の概要も拝見した中で、大月市の現状や今後求められる取り組みについて見識を深めたいとの意向があるようです。

会議への傍聴は原則非公開ということで取り決めがなされているが、志村議長と相談し、この件については委員に諮ることとなり、審議の結果、傍聴を認めることとなりました。

- 理念とビジョンに基づく具体的な提案は、各委員に様式を送付し、事務局へ提出することとなりました。
- 次回会議については、3月下旬頃を目途に、議長、副議長と日程調整して通知することとなりました。